

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05-09-4/5）

目 的

『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でもPDFファイル形式でも配信されている。

成 果

(1) 『年報』2008年度版の刊行

2008年度版の構成は2007年度版にならい、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。2009年度版の編集は年報編集委員会の協力を得て進められ、2009年5月31日に刊行された。

2) 『概要』2009年度版の刊行

『概要』の構成は2009年度にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその文章は日英2カ国語を併記し、図版を多用した。2009年度版の編集は概要編集委員会の協力を得て進められ、第1四半期に刊行された。

3) 『東文研ニュース』の刊行

研究所の研究活動のうち速報性と公共性の高い記事、文化財の研究手法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、そして刊行物の案内などを四半期ごとに掲載した。編集は東文研ニュース編集委員会の協力を得て進められた。平成21年度の実績は下記の通りである。

No. 37 全16頁 2009年5月31日発行

No. 38 全16頁 2009年8月31日発行

No. 39 全16頁 2009年11月30日発行

No. 40 全16頁 2010年2月28日発行

また毎月、『活動報告』（Monthly Report）をそれぞれ日本語版・英語版のホームページ上に掲載するようにし、記事の速報性の確保につとめた。さらに『東文研ニュースダイジェスト』（英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

4) 子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ』の刊行

小学生・中学生を対象に子供向けパンフレットを刊行した。体裁は観音折り、全16ページで、内容は各部・センターの研究紹介、文化財や東京文化財研究所の解説からなる。子供向けパンフレットもPDFファイルのデータとして、ホームページ上からダウンロードできるようにした。また子供向けパンフレットおよびホームページのためにキャラクターやロゴマークを製作した。

5) 広報誌の配布

広報誌は、文部科学省・文化庁各部局、都道府県教育委員会、国および都道府県の美術館・博物館、埋蔵文化財センター、文化財研究部門をもつ大学図書館、大使館、友好協会などに配布した。『概要』『ニュース』、そして子供向けパンフレットは、黒田記念館や研究所受付・資料閲覧室における配布を充実させ、一般向けの情報発信の向上につとめた。とくに『ニュース』は東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、

③資料作成・公開 Area19

九州国立博物館、大分県立歴史博物館、東京芸術大学美術館、そして奈良文化財研究所に対し、配布数を増やし、より一層の情報発信につとめた。子供向けパンフレットについても、台東区立小学校・中学校に配布した。

(6) 『独立行政法人国立文化財機構概要』2009年度版の編集協力

独立行政法人国立文化財機構の発足に伴い、『独立行政法人国立博物館概要』が『独立行政法人国立文化財機構概要』（以下『機構概要』）に改められた。そのため『機構概要』にも東京文化財研究所の紹介記事が掲載されることとなり、その編集を協力した。

(7) パネル展示の調整

研究所1階エントランスホールにおける研究成果の展示に関し、調整を進め、下記の通り実施した。

2009年3月27日～2009年9月17日 「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」（無形文化遺産部）

2009年9月18日～2010年3月4日 「X線透過撮影による仏像の調査・研究」（企画情報部）

2010年3月5日～ 「日中共同唐代陵墓石彫保護修復プロジェクト」（文化遺産国際協力センター）

(8) 台東区立上野中学校におけるパネル展示

10月31日、台東区立上野中学校の空き教室を借用し、学校行事にあわせた展示を行った。展示は、中学校との協議を経て、過去に1階エントランスで行ったパネル展示「[キトラ古墳壁画] 一壁画の取り出しと修復作業について」と「洛中洛外図屏風（カナダ・ロイヤルオンタリオ美術館蔵）の修理 一平成18年度在外日本古美術品保存修復事業」を再構成した。ただしキトラ古墳壁画の取り出しと修復作業に関する展示では、ダイヤモンドワイヤーソー、へら、作業着など、作業に使用する道具を出品するとともに、壁画の取り外しに関する記録映像も上映するなど、内容の充実を図った。参観者数は教職員、生徒、保護者など約400名であった。

(9) アイキャッチ・パネルの設置

アイキャッチ・パネルを画像情報室前に設置し、来訪者を目的地に誘導する便宜を図った。

研究組織

○勝木言一郎、田中淳、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）